

桜井市こども食堂 **ハピネス食堂**

開催月 1 回随時
Instagramで確認

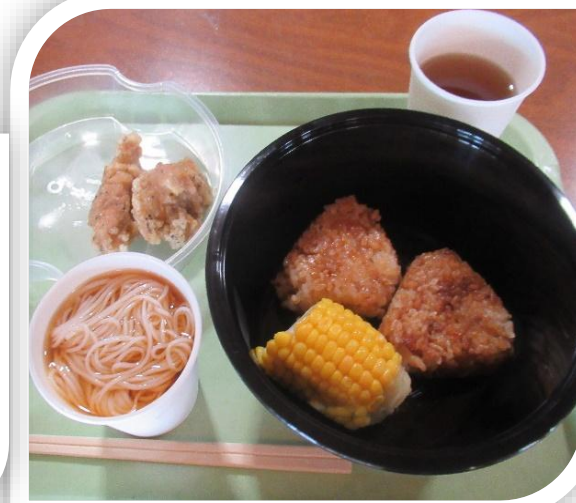


玉砂利のザザッという音を聞きながら車でゆ〜っくりと入って行くと大きな天理教の分教会が見えてきました。こども食堂ハピネスです。受付には楽しみにしていたたくさんの親子づれ。宅食（固定の家庭に配達）活動をしていた代表者が地域でいろんな人と出逢えるきっかけとなるこども食堂を開催したいと思いあたためていました。ふとしたきっかけで、仲間が場所がつながっていき、鳥見山分教会で開催することになったとのことです。駐車場も広く昔からの大きな建もの。玉砂利が敷き詰めてあり、歩くたびにザックザック。小さなこどもたちは、その音も楽しんでいるよう…。いつもは50名くらいの参加者。しかし今日は申し込みの時点で80名強。地域の飲食店から寄付頂いた唐揚げ効果？



それとも周知が広がってきたのかな？とスタッフは嬉しい悲鳴です。今日のメニューは焼きおにぎり、からあげ、コーン、流しそうめん。あともう一つ、ミツはおまかせのかき氷。「こどもたちはミツをいろいろにかけて「イチゴ味！」「むらさきになった！」と大喜び。流しそうめんコーナーではつゆの入った紙コップを片手に“今か今か”と流れてくるそうめんを待っています。「これは竹を切ってフシをきれいに取ってからでないと流せないよ」と小学生に伝えると「うそーっ」「しらなかったあ〜」「毎年、竹はやぶからとってくるよ」「めっちゃ、たいへんやん！」

いろんなミツを
かけてみました。





こどもたちにも簡単じゃないということが伝わったよう…。参加したきっかけを尋ねると「友だち家族に誘われて」や「貼り紙をみて」と着実に広まっているようです。「スイカ割りとか家ではできない体験ができることもあります」と保護者。お腹も満たされるとスーパーボールすくい。スタッフの話を聞き、約束事を守ってポイの紙が破けないようにそーっとそーっとすくいあげます。「やったー!」「あーっ😱 やぶれたあ」と歓声が飛び交います。



取材者もポイ
が破れて😱

こども食堂のやりがいは、いろんな人に出逢えること。「おいしかったあ」「一步、踏み出してよかったあ」と笑顔が見られること。それを聞くと私たちが元気をもらえるんです!!」とスタッフ。

調理担当者「次、こんな食べてほしいな」と日常的に考えるようになり、楽しみがひとつ増えましたとのこと。

陽あたりのいい縁側では靴下会社から寄付された靴下が並んでおり「これ!かわいい!!」とこども。「ありがとうございます」と保護者。



あとがき

こども食堂という場所があるから、いろんな人と関われる。それを知ってる地域の人からもっと盛り上げようと寄付をくださる。人と地域の後押しでこども食堂は成り立っている。少子化の波の中、ここに来ると雑多な雰囲気での体験ができ、こどもたちも刺激を受けますとスタッフ。雑多な雰囲気での体験を繰り返し繰り返し体験し、一人ひとりが生きぬいていく力を身につけられればいいなと強く感じました。

